

全国学力・学習状況調査 蒲郡市の児童生徒の状況

1 調査実施日 令和4年4月19日(火)

2 教科の状況(全国の平均正答率と比較して)

☆小学校6年生の状況

教科	分析
国語	<p>やや下回っている</p> <ul style="list-style-type: none"> ・思考・判断・表現等に関わる「読むこと」の記述形式で、人物像や物語の全体像を具体的に想像する問題では、全国の平均値をやや上回る正答率であった。 ・昨年度まで、全国と同等の正答率であった短答式の問題で、学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う問題は、全国平均値を大きく下回った。 ・思考・判断・表現等に関わる、「読むこと」の選択形式の誤答が目立った。登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉える問題、登場人物の相互関係について、描写を基に捉える問題で、全国平均値を大きく下回った。 ・物語などを読む際に、「構造と内容の把握」、「精査・解釈」に関する指導事項の系統を踏まえて指導することに力を入れていく必要があると考えられた。
算数	<p>やや下回っている</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度同様「C 変化と関係」に関する問題の誤答が目立った。百分率で表された割合を分数で表すことができるかを問う問題、百分率で表された割合と基準量から、比較量を求めることができるかどうかを問う問題が全国平均値を下回る大きな要因だと考えられた。 ・日常の具体的な場面に対応させながら割合について理解したり、図や式などを用いて基準量と比較量の関係を表したりすることができるようにする指導が必要であると考えられた。また、ともなって変わる二つの数量の間に比例の関係があることを見だし、その比例の関係を用いて、未知の数量を求めることができるようにする指導も必要であると考えられた。
理科	<p>やや下回っている</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「生命」を柱とする領域で、自分で行った観察で収集した情報と追加された情報を基に、問題に対するまとめを検討して、改善し、自分の考えをもち、その内容を記述できるかを問う問題、昆虫の体のつくりを理解しているかを問う問題が全国の平均値を大きく下回る要因だと考えられた。また、「粒子」を柱とする領域で、器具やその正しい扱い方についての問題、自然の事物・現象から得た情報を、他者の気づきの視点で分析して、解釈し、改善し、自分の考えをもち、その内容を記述する問題についても全国の平均値を大きく下回る要因だと考えられた。 ・児童が予想や仮説を基に、繰り返し観察したり、他者に説明したりする活動を取り入れ、理解を深めていく学習の流れを意識して授業を改善することが必要であると考えられた。 ・器具の名称を確認し、それを使用する場面を設定すること、器具や機器などの操作の意味を理解したり、定性と定量といった視点で物事をとらえ、目的に応じた実験を行い、知識及び技能を高めながら問題を解釈したりできるような授業改善が必要であると考えられた。 ・児童同士が話し合う中で、比較の考え方を働かせながら、自分や他者の気づきを基に、差異点や共通点をとらえ、新たな問題を見出していくような場面を設定することや、観察、実験などの方法を具体的に見通した上で活動する学習の流れを大切にして授業改善をすることが必要であると考えられた。

☆中学校3年生の状況

教科	分 析
国語	<p>やや上回っている</p> <ul style="list-style-type: none"> ・知識及び技能の情報の扱い方に関する事項と我が国の言語文化に関する事項，思考力，判断力，表現力等の「B 書くこと」，「C 読むこと」の区分において全国平均値を上回った。 ・比較や分類，関係づけ等の情報の整理の仕方，引用の仕方や出典の示し方について理解を深め，それらを使う知識及び技能や根拠を明確にしなが，自分の考えが伝わる文章になるように工夫する思考力，判断力，表現力等が身につけていることがうかがえた。 ・「C 読むこと」の場面の展開や登場人物の心情の変化などについて，描写を基にとらえることができるかを問う問題で，目的に応じて必要な情報に着目して要約したり，場面と場面，場面と描写などを結び付けたりして，内容を解釈する力が身につけていることがうかがえた。 ・一方，言葉の特徴や使い方に関する事項で全国平均値よりやや下回っており，表現の技法について理解しているかどうかについて課題があることがうかがえた。
数学	<p>やや上回っている</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市全体としては，全国平均値をやや上回る結果であった。 ・「A 数と式」の領域の問題場面における考察の対象を明確にとらえる問題では，文字を用いた式について，数学的活動を通して，具体的な事象の中の数量の関係を文字を用いた式で表したり，式の意味を読み取ったりすることが身につけていることがうかがえた。 ・「D データの活用」の領域の知識・技能の観点の問題，思考・判断・表現の観点の問題で，データの傾向を的確に捉え，判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができる力や箱ひげ図から分布の特徴を読み取ることができる力が身につけていることがうかがえた。 ・一方，「C 関数」の領域で，比例のグラフから座標を読み取る問題で，全国平均値をやや下回る結果であった。与えられた表やグラフから，必要な情報を適切に読み取る力を身につけることに課題がみられた。
理科	<p>やや上回っている</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市全体としては，全国平均値よりも上回る結果であった。 ・「生命」を柱とする領域の節足動物の外部形態の観察結果と調べた内容を，生活場所や移動の仕方と関連付けて，体のつくりと働きを分析して解釈できるかどうかを問う問題では，身近な動物の外部形態の観察を行い，その観察記録などに基づいて，共通点や相違点があることを見いだして動物の体の基本的なつくりを理解したり，その共通点や相違点に基づいて動物が分類できることを見いだして理解したりすることが身につけていることがうかがえた。 ・一方，「粒子」を柱とする領域で，水素を燃料として使うしくみの例の水の質量の変化について，適切なものを選択する問題で，全国平均値を下回る結果であった。水を電気分解して発生させた水素を燃料として使うしくみを探究する学習場面において，粒子の保存性の視点から化学変化にかかわる水の質量が変化しないことを，分析して解釈できるかについての課題がみられた。

3 学習・生活習慣等の状況

全国と比較して割合の高いものと低いものについて代表的なものを紹介します。

○小学校6年生の状況

<全国と比較してよい傾向がみられるもの>

- (1) 朝食を毎日食べている。
- (2) 困りごとや不安があるときに、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる。
- (3) 自分と違う意見について考えるのは楽しいと思っている。
- (4) 友達と協力するのは楽しいと思っている。
- (5) 地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある。
- (6) 5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えが伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していた。
- (7) 総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいた。
- (8) 学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めている。
- (9) 算数の授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考えている。
- (10) 理科の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思っている。
- (11) 将来、理科や科学技術に係る職業に就きたいと思っている。

<全国と比較して気になる傾向がみられるもの>

- (1) 自然の中で遊ぶことや自然観察をすることがある子が少ない。
- (2) 5年生までに受けた授業では、各教科等で学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていた子が少ない。
- (3) 5年生までに受けた授業では、自分の思いや考えをもとに、作品や作文など新しいものを創り出す活動を行っていた子が少ない。
- (4) 道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいる子が少ない。

○中学校3年生の状況

<全国と比較してよい傾向がみられるもの>

- (1) 朝食を毎日食べている。
- (2) 先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思っている。
- (3) 人が困っているときは、進んで助けている。
- (4) 友達と協力するのは楽しいと思っている。
- (5) 新聞を読んでいる。
- (6) 今住んでいる地域の行事に参加している。
- (7) 1, 2年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えが伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していた。
- (8) 学級生活をよりよくするために学級活動で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めている。

- (9) 学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいる。
- (10) 国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思っている。
- (11) 理科の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えている。
- (12) 理科の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思っている。
- (13) 将来、理科や科学技術に関係する職業に就きたいと思っている。
- (14) 理科の授業では、自分の予想をもとに観察や実験の計画を立てている。
- (15) 理科の授業で、観察や実験の結果をもとに考察している。

<全国と比較して気になる傾向がみられるもの>

- (1) 毎日、同じくらいの時刻に起きている子が少ない。
- (2) 難しいことでも、失敗を恐れないで挑戦している子が少ない。
- (3) 1, 2年生までに受けた授業では、自分の思いや考えをもとに、作品や作文など新しいものを創り出す活動を行っていた子が少ない。
- (4) 学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている子が少ない。
- (5) 総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいた子が少ない。
- (6) 道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいる子が少ない。

4 調査結果をうけて

蒲郡市教育委員会としては、調査結果をさらに分析し、児童生徒の学力を維持、向上させるための具体的な指導法についてまとめ、各学校に示していきます。各学校もまた、学習状況についても改善に向けた取り組みを考え、実施していきます。

5 留意点

この調査で測定できた力は、学力の一部分です。各家庭では、お子さんの得意な内容、不得意な部分を知り、今後の学習に生かしていけるよう励ましをお願い致します。